

県立高等学校再編将来構想の進捗状況

項目		取組の内容	2022年度実績	2023年度計画
1 再編・統合	稲沢・一宮地区における統合	稲沢高等学校・稲沢東高等学校・尾西高等学校を統合し、農業科と普通科の生徒が相互に学ぶことができ、進学から就職まで、幅広い進路ニーズを実現する、稲沢緑風館高等学校を、稲沢高等学校校地に開校する。【2023年度：新校開校】	<ul style="list-style-type: none"> ・3校と県教育委員会による新校準備委員会を開催 ・普通科に係る教育課程の編成 ・総合選択制の導入に係る普通科・農業科相互の選択科目の調整 ・普通科棟の整備に向けた準備（基本設計） 	<ul style="list-style-type: none"> ◎新校開校 ・3校と県教育委員会による新校運営及び閉校に向けた検討会を開催 ・普通科棟の整備に向けた準備（実施設計）
	津島・弥富地区における統合	津島北高等学校と海翔高等学校を統合し、普通科・商業科・福祉科を併置した新たな学校を、津島北高等学校校地に開校する。【2025年度：新校開校】	<ul style="list-style-type: none"> ・2校と県教育委員会による新校準備委員会を開催 ・福祉科棟の整備に向けた準備（基本設計） 	<ul style="list-style-type: none"> ・2校と県教育委員会による新校準備委員会及び閉校に向けた検討会を開催 ・福祉科棟の整備に向けた準備（実施設計）
2 時代の変化・地域の課題に対応した新たなタイプの学校の設置	犬山総合高等学校（犬山南高等学校）	「デジタル社会に必要なDX人材育成」と「地域の課題解決や新たな産業や会社の在り方を考え企画・実践できる起業家的人材育成」を柱とした、「生徒の新たなチャレンジを全面的に支える学校」を目指す。 【2023年度：校名変更・総合学科への改編】	<ul style="list-style-type: none"> ・総合学科に係る教育課程の編成 ・民間企業への委託による起業家育成プログラムの実施 ・アクティブ・ラーニンググループの整備 ・地元自治体や民間企業との連携や委託の準備 ・デジタル分野の充実に向けた施設・設備の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ◎校名変更・学科改編 ・総合学科に係る教育課程（5系列）の実施 ・民間企業への委託による起業家育成プログラムの実施 ・地元自治体や民間企業との連携 ・プレゼンテーションルーム等の施設やICT機器の整備
	御津あおば高等学校（御津高等学校）	国際教養科の多様性を尊重する教育を継承しつつ、外国にルーツのある生徒や特別な支援が必要な生徒など、多様な生徒を受け入れるインクルーシブな学校づくりを目指す。 【2023年度：校名変更・全日制単位制普通科への改編・昼間定時制の併置】	<ul style="list-style-type: none"> ・単位制の導入に係る教育課程の編成 ・課程間異動に係る基準等の検討 ・民間企業への委託によるVR・アバターを活用したオンライン指導及び部活動外部指導員の配置 ・地元自治体や民間企業との連携や委託の準備 ・多様な生徒を支援するための設備等の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ◎校名変更・学科等改編 ・単位制の導入に係る教育課程の実施 ・課程間異動に係る基準等の検討 ・民間企業への委託によるVR・アバターを活用したオンライン指導及び部活動外部指導員の配置 ・地元自治体や民間企業との連携 ・学習支援設備等の整備

項目	取組の内容	2022年度実績	2023年度計画																																																											
3 経済社会とリンクした実践的な商業教育へのリニューアル	<p>地元企業が求める「ビジネス現場で主体的に行動できる人材」の育成を図るため、教育内容の見直しを行う。また、大学での専門分野の探究や、専門学校での高度な資格取得を目指す生徒のための対応を充実する。さらに、中学生に対する商業高校のイメージアップを図る。</p> <p>【2023年度：校名変更・学科改編等】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ITビジネス科、グローバルビジネス科、会計ビジネス科、地域ビジネス科、キャリアビジネス科に係る教育課程の編成（9校） ・生活文化科に係る教育課程の編成（春日井泉） ・単位制の導入に係る教育課程の編成（中川青和） ・先進県視察 	<p>◎校名変更・学科改編</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商業科を設置する県立高校へのビジネス探究プログラム（PBL）の導入 ・ビジネス探究プログラム（PBL）に係る教材、ソフトウェアの整備 ・生活文化科に係る教育課程の実施 ・調理室、被服室等の施設や調理台等の整備（春日井泉） ・単位制の導入に係る教育課程の実施（中川青和） 																																																											
4 魅力発信	<p>学校説明会やWebページのリニューアルなどによる県立高等学校の魅力発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県立高校進学フェアの開催（8月6日（118校）、10月2日（111校）に尾張・三河の各地区で開催） ・統合、校名変更、学科改編を実施した学校のWebページのリニューアル 	<p>愛知県立高校進学フェアを県内8会場で開催（6月～8月）</p>																																																											
5 中高一貫教育	<p>将来の予測が極めて難しいこれからの社会や時代において求められるチェンジ・メーカーを育成するため、中高一貫教育を導入する。</p> <p>【第一次導入校】 2025年4月開校</p> <table border="1" data-bbox="276 1129 1433 1333"> <thead> <tr> <th>類型</th> <th>導入校</th> <th>タイプ</th> <th colspan="2">併設中学校の1学年の定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">探究学習重視型</td> <td rowspan="2">明和高校</td> <td>SSH実施校</td> <td>普通コース</td> <td>2学級80人</td> </tr> <tr> <td>音楽科設置校</td> <td>音楽コース</td> <td>1学級20人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">半田高校 刈谷高校 津島高校</td> <td rowspan="2">SSH実施校</td> <td>普通コース</td> <td>2学級80人</td> </tr> <tr> <td>普通コース</td> <td>2学級80人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>津島高校</td> <td>グローバル探究実施校</td> <td>国際探究コース</td> <td>2学級80人</td> </tr> </tbody> </table> <p>【第二次導入校】 2026年4月開校（衣台高校は2025年度～2026年度を目的に連携型を導入、将来的に併設型への移行を目指す）</p> <table border="1" data-bbox="276 1367 1433 1703"> <thead> <tr> <th>類型</th> <th>導入校</th> <th>タイプ</th> <th colspan="2">併設中学校の1学年の定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">探究学習重視型</td> <td>豊田西高校</td> <td rowspan="2">SSH実施校</td> <td>普通コース</td> <td>2学級80人</td> </tr> <tr> <td>時習館高校</td> <td>普通コース</td> <td>2学級80人</td> </tr> <tr> <td>西尾高校</td> <td>グローバル探究実施校</td> <td>国際探究コース</td> <td>2学級80人</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">地域のニーズ対応型</td> <td>（不登校） 日進高校</td> <td>不登校経験のある生徒の能力、可能性を引き出す学校</td> <td>普通コース</td> <td>1学級40人</td> </tr> <tr> <td>（外国人） 衣台高校</td> <td>外国にルーツのある生徒の能力、可能性を引き出す学校</td> <td colspan="2">豊田市立中学校との連携型</td> </tr> <tr> <td>（地域人材） 美和高校</td> <td>地域を支える人を育てる学校</td> <td colspan="2">あま市・大治町等の中学校との連携型</td> </tr> <tr> <td>高度ものづくり型</td> <td>愛知総合工科高校</td> <td>AI・データサイエンスに興味・関心をもつ生徒の能力・可能性を引き出す学校</td> <td>工科コース（仮称）</td> <td>1学級40人</td> </tr> </tbody> </table>	類型	導入校	タイプ	併設中学校の1学年の定員		探究学習重視型	明和高校	SSH実施校	普通コース	2学級80人	音楽科設置校	音楽コース	1学級20人	半田高校 刈谷高校 津島高校	SSH実施校	普通コース	2学級80人	普通コース	2学級80人		津島高校	グローバル探究実施校	国際探究コース	2学級80人	類型	導入校	タイプ	併設中学校の1学年の定員		探究学習重視型	豊田西高校	SSH実施校	普通コース	2学級80人	時習館高校	普通コース	2学級80人	西尾高校	グローバル探究実施校	国際探究コース	2学級80人	地域のニーズ対応型	（不登校） 日進高校	不登校経験のある生徒の能力、可能性を引き出す学校	普通コース	1学級40人	（外国人） 衣台高校	外国にルーツのある生徒の能力、可能性を引き出す学校	豊田市立中学校との連携型		（地域人材） 美和高校	地域を支える人を育てる学校	あま市・大治町等の中学校との連携型		高度ものづくり型	愛知総合工科高校	AI・データサイエンスに興味・関心をもつ生徒の能力・可能性を引き出す学校	工科コース（仮称）	1学級40人	<ul style="list-style-type: none"> ・「県立高等学校再編将来構想具体化検討委員会」「中高一貫教育導入検討部会」及びワーキンググループで、中高一貫教育の導入について検討。 ・7月26日 第一次導入校を決定・公表 ・1月16日 第二次導入校を決定・公表 「愛知県 中高一貫教育導入方針」を策定・公表 ・3月28日 外国にルーツがある生徒を対象とした中高一貫校として衣台高校を決定・公表 	<ul style="list-style-type: none"> ・「県立高等学校再編将来構想具体化検討委員会」「中高一貫教育具体化検討部会」及びプロジェクトチーム、ワーキンググループで、教育内容や入学者選考の方法等について検討。 ・7月 入学者選考方法の概要公表 ・10月 教育内容と入学者選考方法公表 ・10月下旬～11月 児童保護者を対象とした学校説明会の開催。 ・12月 サンプル問題公表 ・校舎整備 第一次導入校 [津島、半田、刈谷] 実施設計 [明和] 基本・実施設計（既設校舎の建て替えと合わせて整備） 第二次導入校 [豊田西、西尾、時習館] 基本設計
類型	導入校	タイプ	併設中学校の1学年の定員																																																											
探究学習重視型	明和高校	SSH実施校	普通コース	2学級80人																																																										
		音楽科設置校	音楽コース	1学級20人																																																										
	半田高校 刈谷高校 津島高校	SSH実施校	普通コース	2学級80人																																																										
			普通コース	2学級80人																																																										
	津島高校	グローバル探究実施校	国際探究コース	2学級80人																																																										
類型	導入校	タイプ	併設中学校の1学年の定員																																																											
探究学習重視型	豊田西高校	SSH実施校	普通コース	2学級80人																																																										
	時習館高校		普通コース	2学級80人																																																										
	西尾高校	グローバル探究実施校	国際探究コース	2学級80人																																																										
地域のニーズ対応型	（不登校） 日進高校	不登校経験のある生徒の能力、可能性を引き出す学校	普通コース	1学級40人																																																										
	（外国人） 衣台高校	外国にルーツのある生徒の能力、可能性を引き出す学校	豊田市立中学校との連携型																																																											
	（地域人材） 美和高校	地域を支える人を育てる学校	あま市・大治町等の中学校との連携型																																																											
高度ものづくり型	愛知総合工科高校	AI・データサイエンスに興味・関心をもつ生徒の能力・可能性を引き出す学校	工科コース（仮称）	1学級40人																																																										
6 普通科高校の改革	<p>普段から学校の外に出て、大学や地域の企業、自治体などの協力を得ながら探究活動を進めるといった、これまでの教室内での学びにとどまらない学びへの転換</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会が抱える課題などに関する実践的な学びを盛り込んだカリキュラムを普通科高校2校においてモデル的に実施。 																																																											

愛知県 中高一貫教育導入方針【抜粋】

参考資料

2023年1月16日 発表
2023年3月28日 一部追加

1 中高一貫教育導入の経緯

- 愛知県では、入学者選抜を行わず同一の設置者により中学校と高校を接続した教育を行う「併設型中高一貫教育」については、2015年3月に策定した「県立高等学校教育推進基本計画（高等学校将来ビジョン）」において、「生徒の個性や創造性を伸ばす・・・併設型中高一貫教育校について研究する」としていたが、具体的な進捗はなかった。
- ビジョン策定後、2016年度から県立高校の欠員が徐々に増加し、2021年度には2,600人を超えるなど、県立高校を取り巻く状況が大きく変わった。また、2035年には中学校卒業見込者の数が現在の7万人から5万7千人へと、約2割、減少することが見込まれた。こうした県立高校の置かれた大きな状況の変化を踏まえ、2021年12月に「県立高等学校再編将来構想」を策定し、県立高校の魅力化・特色化、再編に向けた取組を進めていくこととした。
- 再編将来構想の策定に当たっては、県立高校長、市町村教育委員会教育長など関係の方々と幅広く意見交換を行い、その中で、併設型の中高一貫校の設置について提案があったことから、中高一貫教育制度の導入の可能性について検討した。そして、高校から導入に強い関心があり、地域の教育関係者から導入の検討に一定の理解を得られた、明和・津島・半田・刈谷高校の4校を、2022年4月6日に、探究学習を重視するタイプの第一次導入候補校として検討を進めることを発表した。なお、併設型中高一貫校は、41都道府県で設置されている状況であった。
- 検討に当たっては、5月に教育関係者による「中高一貫教育検討部会」を設置して、本県における中高一貫教育制度の導入について本格的に検討を進め、5月から7月まで3回の検討部会を経て、7月26日に、明和・津島・半田・刈谷高校の4校を第一次導入校として決定した。また、明和高校には、公立の中高一貫校では全国初となる併設中学校に音楽コースを設置することとした。
- その後、9月から11月まで3回の検討部会で第二次導入候補校について検討を進めた。第一次導入校と同様の探究学習を重視するタイプについては、地域バランスを考慮し、三河地域に、豊田西・時習館・西尾高校の3校を追加設置することについて検討した。また、不登校経験者や外国にルーツのある生徒が能力や可能性を伸ばすことができる学校、中学校や地域の様々な人たちと連携協力しながら中学校と高校が接続した教育を目指す新しいタイプの地域連携型の学校、さらにはDX（デジタルトランスフォーメーション）を先導する高度なものづくり人材を育てる学校など、地域の教育ニーズに応える、愛知らしい中高一貫校についても同時に検討を行った。
- そして、こうした検討を経て、探究学習重視型3校、地域の教育ニーズ対応型2校、高度ものづくり型1校を、第二次導入校として追加決定した。
- 第一次・第二次導入校の決定を踏まえ、「愛知県 中高一貫教育導入方針」を定めることとした。

2 中高一貫教育導入のねらい

チェンジ・メーカーを育てる
～ 自分らしさの探究と創造・チャレンジ ～
～ 一人一人異なる個性をもつ子どもたちの可能性を最大限引き出す学びの実現 ～
～ 誰もが社会の変革者となる学びの推進 ～

（趣 旨）

- 現在の社会は加速度的に変化し続けており、将来の予測が極めて難しい時代となっています。
- このような社会や時代においては、様々な人と協働しながら、答えのない課題に対して、失敗を恐れずにチャレンジし、社会に変化を起こす「チェンジ・メーカー」になっていくことが求められています。
- また、将来の予測が難しい時代においては、一部の人が「チェンジ・メーカー」となるのではなく、これからの時代を生きていく全ての人が、「チェンジ・メーカー」として、それぞれの個性や能力を発揮し、様々な場面で変化を起こすことが必要となります。
- 本県で、今後導入する様々なタイプの中高一貫教育では、ゆとりのある計画的・継続的な教育や、地域の方々との活動を通して、一人一人異なる個性をもつ子どもたちの可能性を最大限に引き出し、伸ばす学びを進めていきます。そして、子どもたちが、将来、困難に遭遇した時、「この学校で、この仲間たちと、この先生たちと、この地域の人たちと、一緒に学んで良かった」と思えるような学校づくりを進めていきます。

探究学習重視型 中高一貫校 7 校の概要

＜第一次導入校＞ 2025年4月開校

タイプ	地区	学校名 (所在地)	1 学年学級数		現在の高校における取組、特色	導入のイメージ
			中学校	高校 (2023 年度)		
SSH実施校	名古屋	明和高校 (名古屋市)	普通コース 2 学級 80 人	普通科 8 学級	都市に起因する現象や課題などをテーマに、大学、企業、行政と連携して科学技術リーダーを育成。	<ul style="list-style-type: none"> ○ SSH(※)の探究的な学びをベースに、中学校段階から文理融合の探究的な学びに取り組む。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <small>※SSH (スーパーサイエンスハイスクール) 文部科学省の研究指定校。将来の国際的な科学技術関係人材を育成するため、学習指導要領によらないカリキュラムの開発・実践や課題研究の推進、観察、実験等を通じた体験的・問題解決的な学習など、先進的な理数教育に取り組む。</small> </div>
	知多	半田高校 (半田市)	普通コース 2 学級 80 人	普通科 8 学級	起業家精神育成や海外進出促進など、先進的分野に果敢に挑戦する人材を育成。文理融合型探究活動の実践を目指す。	
	西三河 南	刈谷高校 (刈谷市)	普通コース 2 学級 80 人	普通科 10 学級	「探究系」を設置し、自然科学と人文・社会科学の双方のアプローチから課題解決する文理融合型探究活動に取り組む。	
グローバル探究 実施校	海部	津島高校 (津島市)	国際探究 コース 2 学級 80 人	普通科 9 学級	地元小中学校への英語出前授業や、国際交流活動などに取り組む国際理解コースを普通科に設置。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国際理解コースで取り組んでいる国際交流等の取組をベースに、中学校段階から探究的な学びに取り組む。 ○ 国際探究科に学科改編し、国際バカロレア(※1)を踏まえた探究的な学びを実践する。 ○ 中学校・高校への国際バカロレアの導入を目指す。

※1 国際バカロレア：課題論文、批判的思考の探究等の特色的なカリキュラム、双方向・協働型授業により、世界 150 以上の国・地域の 5,000 校以上で実施。高校レベルのディプロマ・プログラム (DP) で、国際的に通用する大学入学資格 (IB 資格) を取得し、その成績によって世界の大学への入学が可能となる。

タイプ	地区	学校名 (所在地)	1 学年学級数		現在の高校における取組、特色	導入のイメージ
			中学校	高校 (2023 年度)		
音楽科設置校	名古屋	明和高校 (名古屋市)	音楽コース 1 学級 20 人	音楽科 1 学級	音楽に必要な各分野の基礎的な力を定着させ、個々の専攻の力をより高度に伸ばし、音楽の専門家を育成。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校段階から、充実した環境の中で個々の才能を最大限に伸ばし、現代社会とのつながりを意識したアーティストを輩出する。

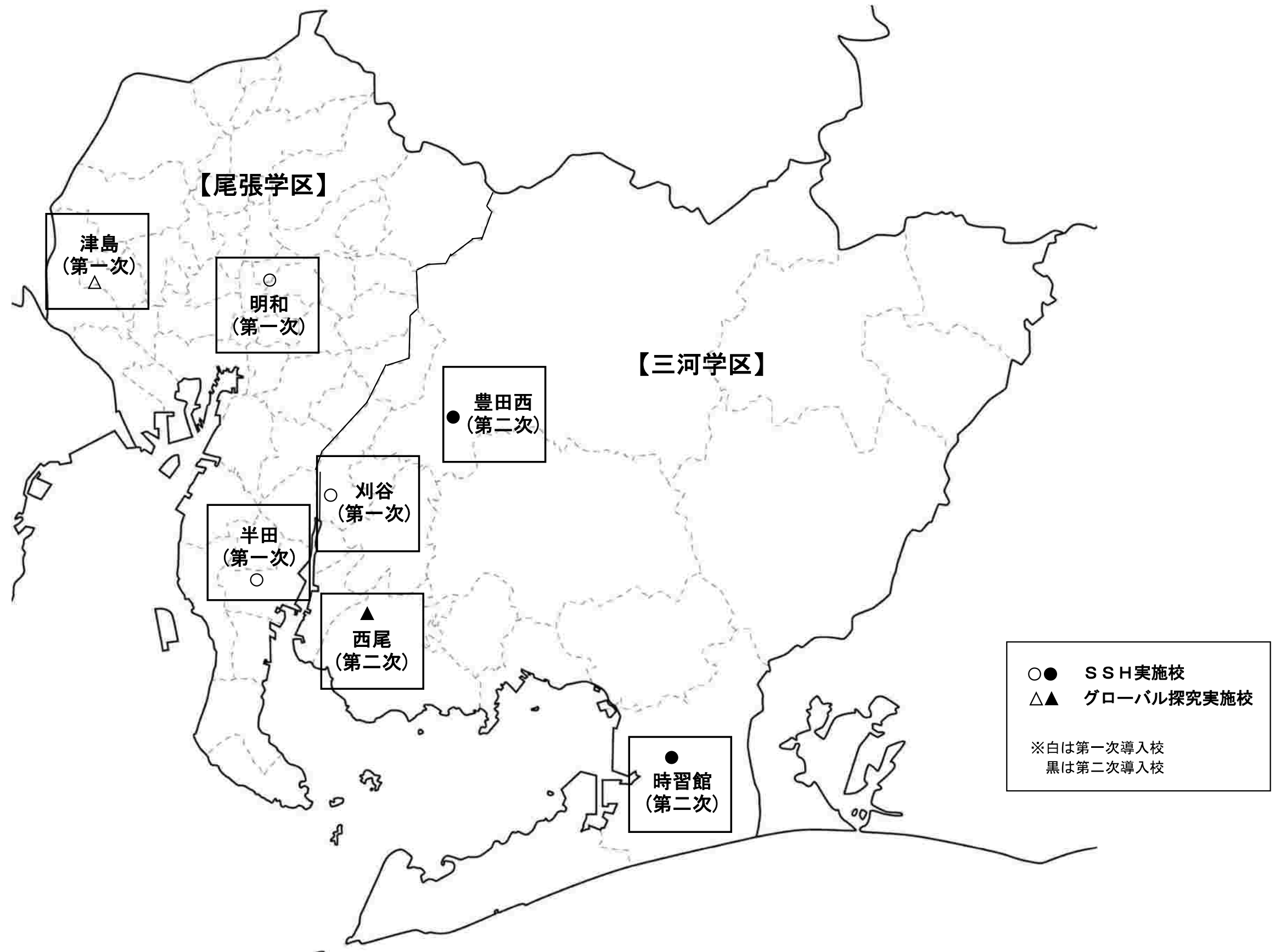
＜第二次導入校＞ 2026年4月開校

タイプ	地区	学校名 (所在地)	1 学年学級数		現在の高校における取組、特色	導入のイメージ
			中学校	高校 (2023 年度)		
SSH実施校	西三河 北部	豊田西高校 (豊田市)	普通コース 2 学級 80 人	普通科 9 学級	地元の世界的企業や大学と連携したイノベーションを実現する人材の育成。	<ul style="list-style-type: none"> ○ SSHの探究的な学びをベースに、中学校段階から文理融合した探究的な学びに取り組む。
	東三河	時習館高校 (豊橋市)	普通コース 2 学級 80 人	普通科 8 学級	SSHと、グローバルリーダーの育成を目指した「AGH (あいちグローバルハイスクール) (※2)」の両方に指定。	<ul style="list-style-type: none"> ○ SSHとAGHの取組をベースに、中学校段階から文理融合した探究的な学びに取り組む。 ○ 中学校・高校への国際バカロレアの導入を目指す。
グローバル探究 実施校	西三河 南部	西尾高校 (西尾市)	国際探究 コース 2 学級 80 人	普通科 9 学級	英語を高いレベルで使いこなす人材の育成を目指す「あいちスーパーイングリッシュハブスクール(※3)」に指定。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国際交流や地元のことを学ぶ取組など、中学校段階からグローバルな探究学習に取り組む。 ○ 中学校・高校への国際バカロレアの導入を目指す。

※2 AGH (あいちグローバルハイスクール)：文部科学省の「スーパーグローバルハイスクール (SGH)」の取組を継承した事業。旭丘高等学校と時習館高等学校の2校を指定。

※3 あいちスーパーイングリッシュハブスクール：英語教育の拠点校 13 校を指定し、英語を高いレベルで使いこなす人材の育成を目指す。西尾高等学校は、西尾・岡崎・幸田圏内 13 校の拠点校。

探究学習重視型 中高一貫校の配置図



地域の教育ニーズ対応型・高度ものづくり型 中高一貫校 4校の概要

＜第二次導入校＞ 地域の教育ニーズ対応型中高一貫校 2026年4月開校 (衣台高校は、2025年から2026年を目途に連携型中高一貫教育を導入)

タイプ	地区	学校名 (所在地)	高校 学級数 (2023年度)	現在の高校における 取組、特色	中高一貫教育の 仕組み	導入のイメージ
不登校経験のある生徒の能力、可能性を引き出す学校	尾張 東部	日進高校 (日進市)	普通科 3学級	学び直し、少人数、個に応じた指導を学びの柱として、社会で活躍する自覚と誇りをもった生徒を育成。通級による指導を導入。	併設型 中高一貫校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年間総授業時間数を低減できる「不登校特例校」(※1)として設置し、不登校の生徒が、高校卒業まで安心してゆとりをもって学ぶことができる中高一貫校。 ○ 1学年1学級(40人)。 ○ 中学校・高校同時スタート。
外国にルーツのある生徒の能力、可能性を引き出す学校	西三河	衣台高校 (豊田市)	普通科 5学級	外国人生徒選抜実施校として、外国人生徒を取り出した日本語指導や、保護者への通訳など、外国人生徒の学習活動や学校生活を支援。	豊田市と衣台高校による連携型中高一貫教育 ⇒将来、併設型中高一貫校への移行を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外国にルーツのある生徒が、教科学習にゆとりをもって学ぶことができる中高一貫校。 ○ 母語・母文化にも焦点を当てた教育プログラムを、大学等と連携して研究。 ○ 特別の教育課程による日本語指導(※3)活用。 ○ 併設型移行時 1学年1学級(40人)。
地域を支える人を育てる学校	海部	美和高校 (あま市)	普通科 5学級	「美和高地域連携センター(美和高マインド)」を設立し、地域の役所等と協議を進め、高校生として地域に貢献できることを実践。	あま市・大治町等近隣市町村と美和高校による連携型中高一貫教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域での様々な活動を通して、地域にとってかけがえのない高校を目指す中高一貫校。 ○ 中高間の教育課程の接続・連携や教員・生徒間・地域・大学・専門学校間の交流を強化。キャリア教育の推進、探究科目の増加など高校の魅力化。

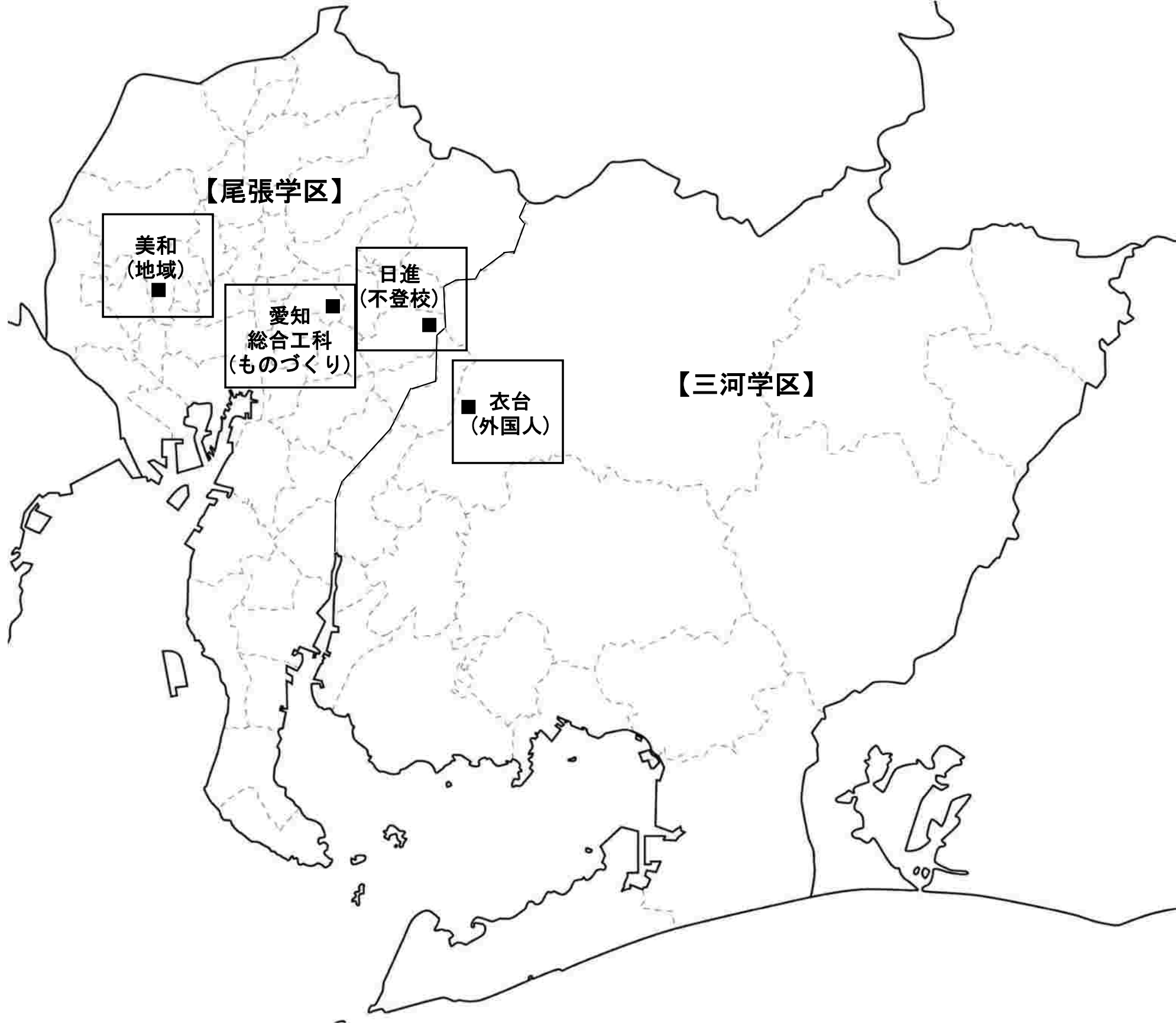
- (※1) 不登校特例校：不登校の実態に応じて特別の教育課程を編成することができる学校。「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律(2016年12月施行)」により、全国で導入が進んでいる。
- (※2) 外国人生徒選抜実施校：外国籍をもち、小学校4年以上に編入した者又は入国後の在日期間が6年以内の者が出願対象。西三河地区では、衣台・安城南・豊田工科・知立の4校で実施。
- (※3) 特別の教育課程による日本語指導：学校生活や授業の理解が必要となる日本語を、教育課程の一部の時間を替えて指導する形態。現在は小・中学校のみであるが、2023年度から高校も可能となる予定。

＜第二次導入校＞ 高度ものづくり型中高一貫校 2026年4月開校

タイプ	地区	学校名 (所在地)	高校 学級数 (2023年度)	現在の高校における 取組、特色	中高一貫教育の 仕組み	導入のイメージ
AI(※4)・データサイエンス(※5)に興味・関心をもつ生徒の能力、可能性を引き出す学校	名古屋	愛知総合工科 高校 (名古屋市)	工業科 9学級	本県唯一の理工科を設置し、理数工学に関する高度で実践的な知識や技術を育成。 本科3年間の上に2年間、より専門性の高い技術・技能を習得できる専攻科を設置。	併設型 中高一貫校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工科高校の施設と教員を生かした中高一貫教育。 ・ 1学年1学級(40人)。 ・ 中学校段階からものづくりに触れ、中高6年間、専攻科を含めると8年間で、DX(デジタルトランスフォーメーション)(※6)をリードする人材を育成。

- (※4) AI：Artificial Intelligenceの略。人間の思考プロセスと同じような形で動作するプログラム、あるいは人間が知的と感じる情報処理・技術。
- (※5) データサイエンス：データを軸として、情報科学や統計などのアプローチから、有益な知見やビジネス上の便益をもたらすよう働きかける学問。
- (※6) DX：将来の成長、競争力強化のために、新たなデジタル技術を活用して、内部エコシステム(組織、文化、従業員)の変革を牽引しながら、新たなビジネスモデルを創出・柔軟に改変すること。

地域の教育ニーズ対応型・高度ものづくり型 中高一貫校の配置図



愛知県 定時制・通信制教育アップデートプラン【抜粋】

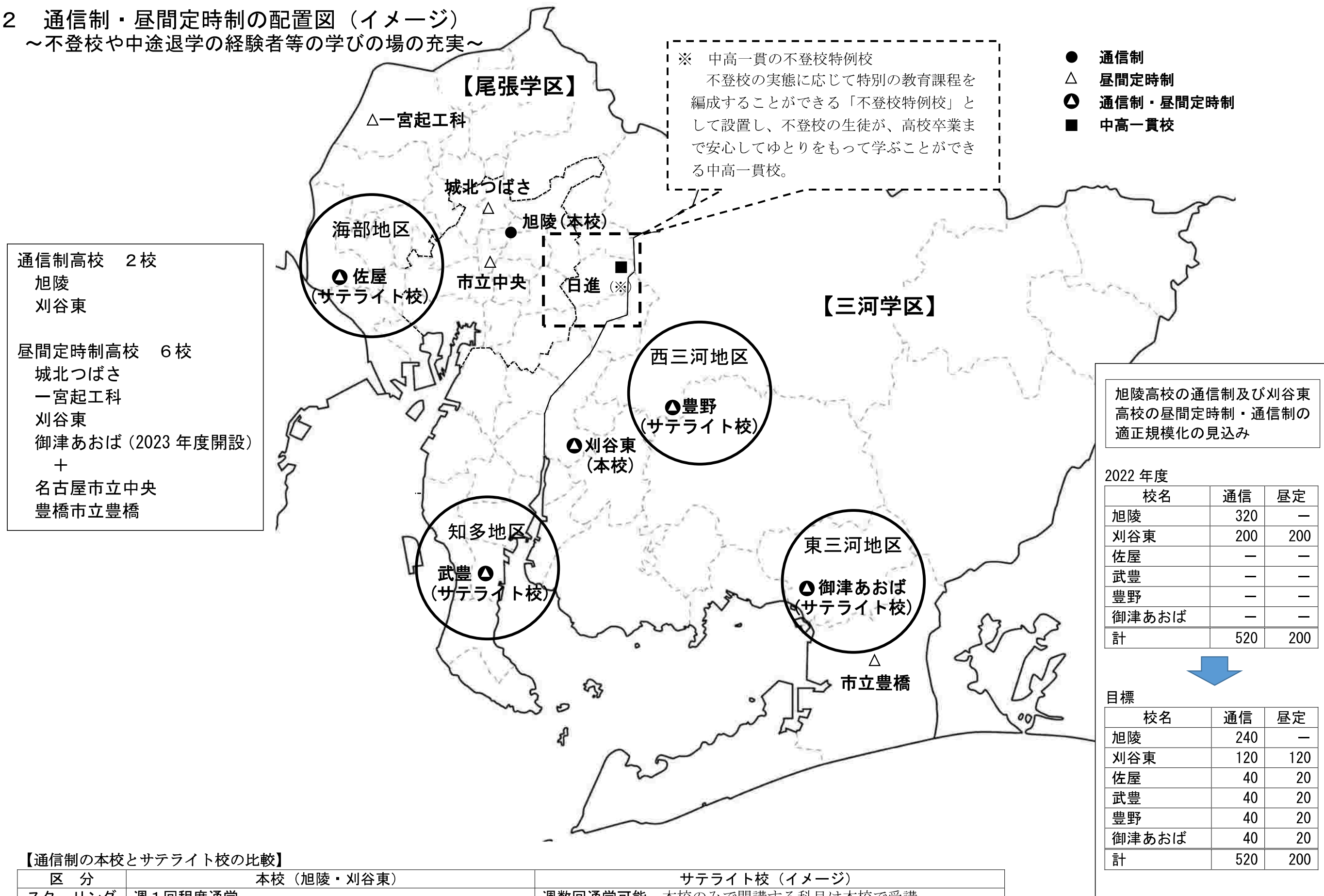
- 近年、定時制・通信制高校は、働きながら学ぶことを前提とする勤労青年のための学びの場だけでなく、不登校や中途退学の経験者、外国にルーツをもつ生徒など、多様な学習ニーズをもつ生徒の学びの場に変ってきている。
- こうした生徒に対応していくため、地域社会や企業との連携・協働、専門的知識やスキルを有する外部人材の活用や個々の生徒の抱える事情に応じたきめ細かな支援などにより、新しい時代に対応した定時制・通信制教育にアップデートしていく必要がある。

1 定時制・通信制教育の現状とアップデートプラン

区分	課題を抱える生徒のイメージ*	課題	アップデートプラン								
通信制 2校 旭陵高校 刈谷東高校	不登校経験者	1 通信制へ進学する生徒の増加 <ul style="list-style-type: none"> 不登校を経験した生徒の学びの場となっている。最近の不登校生徒の中には、学校を居場所として毎日でも学校へ行きたいという生徒が増えてきている。 ⇒生徒のニーズに柔軟に対応した広域通信制高校が人気となっている。 通学の日数（週1日、3日、5日）が選べる、駅近くで学習できる 等 県立通信制高校への入学者も、2021年度から急増している。 2020年度：430人→2021年度：477人→2022年度：675人（旭陵440人、刈谷東235人）（1.5倍に） ※入試日程を2月末から1月末へ早めた効果もあり。 2 旭陵高校の施設不足 <ul style="list-style-type: none"> 旭陵高校は、旭丘高校校舎を使用するため、スクーリングは日曜日に限られ、生徒が自由に通うことが出来ない。 刈谷東高校は、刈谷東高校昼間定時制校舎を共用するため、利用がやや制限される。 	1 通信制のスクーリングを行うサテライト校 と 小規模の昼間定時制・単位制 を同じ学校内に設置（2025年4月開設） ⇒施設に余裕のある以下の高校に設置する ※地域バランスを考慮 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">海 部</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">佐屋高校（愛西市）</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">知 多</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">武豊高校（武豊町）</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">西三河</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">豊野高校（豊田市）</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">東三河</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">御津あおば高校（豊川市）</td> </tr> </table> </div> <ul style="list-style-type: none"> 現在の全日制を学年制から単位制へ改編 定員 通信制40人規模、昼間定時制20人程度/学年 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;"> 通信制 ⇄ 昼間定時制（単位制） ⇄ 全日制（単位制） </div> <ul style="list-style-type: none"> 原則、コース間の行き来を自由にし、自分のペースで学べる環境をつくる。 添削指導のネット活用化、オンデマンドによる補習支援など、ICTを活用した通信制教育の充実。 仮想空間「メタバース」、分身「アバター」を活用した「学びのVRネットワーク」で、人との関わりやコミュニケーションが苦手な生徒をサポート。 	海 部	佐屋高校（愛西市）	知 多	武豊高校（武豊町）	西三河	豊野高校（豊田市）	東三河	御津あおば高校（豊川市）
海 部	佐屋高校（愛西市）	知 多	武豊高校（武豊町）								
西三河	豊野高校（豊田市）	東三河	御津あおば高校（豊川市）								
昼間定時制 県立4校 + 市立2校 計6校	不登校経験者 特別な支援が必要な生徒 家庭に事情がある生徒	1 昼間定時制へ進学を希望する生徒の増加 <ul style="list-style-type: none"> 自分のペースで学べるため、不登校経験者から人気が高い。 前期：募集人員576人 志願者790人 志願倍率1.37倍 後期：募集人員90人 志願者89人 志願倍率0.99倍 2 地域バランスの偏り （名古屋）市立中央高校（40人×4学級）・城北つばさ高校（40人×3学級→4学級） （尾 張）一宮起工科高校（40人×2学級） （西三河）刈谷東高校（40人×5学級） （東三河）御津あおば高校（20人×1学級(2023～)）・市立豊橋高校（40人×4学級）	2 旭陵高校の通信制を適正規模へダウンサイジング ⇒通信制の本校に通学する生徒：320人/学年→2025年280人→最終的に240人へ								
夜間定時制 県立25校 + 市立3校 計28校	外国にルーツをもつ生徒	1 外国人生徒への日本語指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> 外国人生徒の多くが、日本語によるコミュニケーション能力が足りない。 外国人生徒支援員は母語支援が中心で、日本語の指導が足りない。 	3 刈谷東高校の昼間定時制・通信制を適正規模へダウンサイジング ⇒昼間定時制：5学級/学年 → 2025年4月4学級 → 最終的に2～3学級へ 通信制の本校に通学する生徒：200人/学年→2025年160人→最終的に120人へ								
		3 刈谷東高校の大規模化の解消 <ul style="list-style-type: none"> 様々な事情を抱える生徒への丁寧な対応が困難である。 4 スクールカウンセラーやキャリア教育コーディネーターなどの専門家が非常駐	4 相談・就労支援体制の充実 ⇒スクールカウンセラーやキャリア教育コーディネーターなどの常駐化を検討								
			1 日本語を基礎から学べる夜間中学を設置 豊橋工科高校（2025年4月開校） 豊田西高校、小牧高校、一宮高校（2026年4月開校） <ul style="list-style-type: none"> 各学年1学級10人程度 全体で10～30人程度。（定員なし） 義務教育を十分に受けて中学を卒業した人の学び直しにも対応。 2 「若者・外国人未来塾」の活用 （現在、県内9箇所を設置、週2日、平日・土曜日の午後2時間） <ul style="list-style-type: none"> 平日、夜間定時制に通う生徒が、平日・土曜日の午後、「若者・外国人未来塾」のサポートを受け、日本語習得を目指す。 3 相談・就労支援体制の充実 （再掲）								

※「課題を抱える生徒のイメージ」には、多様な課題のうち特に喫緊の課題となっているものについて記載してある。

2 通信制・昼間定時制の配置図（イメージ） ～不登校や中途退学の経験者等の学びの場の充実～



【通信制の本校とサテライト校の比較】

区分	本校（旭陵・刈谷東）	サテライト校（イメージ）
スクーリング	週1回程度通学	週数回通学可能、本校のみで開講する科目は本校で受講
添削指導	本校でスクーリングを実施する科目について添削指導する	サテライト校でスクーリングを実施する科目について添削指導する
試験	年2回	年2回（サテライト校で受講する科目）
単位認定		本校で行う

3 夜間中学の設置

現在、本県では、財団による「中学夜間学級」が運営されているが、教育機会確保法を踏まえ、外国にルーツをもつ生徒の教育の充実を図るため、外国人が多く居住する地区の夜間定時制高校に「夜間中学」を設置する。

(1) 国の動き

ア 法律の制定 (2016年12月14日公布)

義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律
第14条 (就学の機会提供等)

地方公共団体は、学齢期を経過した者 (その者の満六歳に達した日の翌日以後における最初の学年の初めから満十五歳に達した日の属する学年の終わりまでの期間を経過した者をいう。) であつて学校における就学の機会が提供されなかったもののうちその機会の提供を希望する者が多く存在することを踏まえ、夜間その他特別な時間において授業を行う学校における就学の機会の提供その他の必要な措置を講ずるものとする。

イ 子どもの貧困対策に関する大綱 (2019年11月29日 閣議決定)

全ての都道府県に少なくとも一つの夜間中学が設置されるよう、また、人口規模や都市機能に鑑み、全ての指定都市において夜間中学が設置されるよう促進する。

ウ 菅総理大臣の国会答弁 (2021年1月25日 衆議院予算委員会)

今後5年間で全ての都道府県・指定都市に夜間中学が少なくとも1つ設置されることを目指す。



[文部科学省の見解]

政令指定都市のある道府県は、政令指定都市に1校、政令指定都市以外の県域に1校

(2) 愛知県の「中学夜間学級」

- 1973年(昭和48年)から、県と名古屋市が協力・連携し、(公財)愛知県教育・スポーツ振興財団が運営。
- 文部科学省は、愛知県の中学夜間学級を「自主夜間中学」として取り扱っており、「夜間中学」とは認めていない。

	夜間中学	愛知県の中学夜間学級										
目的	義務教育を修了しないまま学齢期を経過した人や、不登校など様々な事情により十分な教育を受けられないまま中学校を卒業した人、外国籍の人などの義務教育を受ける機会を実質的に保障する。	様々な事情により中学校教育を受けられる機会を逃した人で、中学校卒業資格の取得を希望する人のために学習の機会を提供する。 (1973年開講)										
対象	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育を修了しないまま学齢期を経過した方 ・不登校など様々な事情により十分な教育を受けられないまま中学校を卒業した方 ・本国や我が国で義務教育を修了していない外国籍の方 など ※特例として不登校の学齢生徒を受入れることもある	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校を卒業していないこと ・義務教育修了年齢を超えていること ・愛知県内に在住であること 										
定員	<u>制限なし</u>	各学年 <u>20名程度</u>										
年限	<u>3年</u> (中2、3年生に途中入学も可能)	<u>2年</u> (名古屋市立北山中学校に籍を置く)										
授業日	<u>週5日(月～金)</u> 9教科指導要領を踏まえつつ、特別の教育課程の実施も可能	<u>週3日(月・水・金)</u> 、 18時～20時30分 中学3年間の内容を2年間で学習										
施設	<u>校舎(教室・図書館・保健室・職員室)、運動場・体育館</u> が必要	<u>県教育会館内の教室</u> を使用 音楽、保健体育、技術・家庭は、北山中学校の特別教室、体育館を使用										
その他		<table border="0"> <tr> <td>県の運営費補助</td> <td>5,546千円</td> </tr> <tr> <td>名古屋市の教員派遣</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>在籍者</td> <td>28人</td> </tr> <tr> <td>授業料</td> <td>無料</td> </tr> <tr> <td>教科書</td> <td>無償支給</td> </tr> </table>	県の運営費補助	5,546千円	名古屋市の教員派遣	12人	在籍者	28人	授業料	無料	教科書	無償支給
県の運営費補助	5,546千円											
名古屋市の教員派遣	12人											
在籍者	28人											
授業料	無料											
教科書	無償支給											

(3) 県立夜間中学の設置

地区	設置場所	地域、中学校などの状況	夜間定時制高校の状況	開校時期
東三河	豊橋工科高校 夜間定時制 (豊橋市)	○豊橋市は、外国人が、名古屋市に次いで、県内で2番目に多く居住している。 ○日本語の習得が十分でないため、夜間中学で学びたいという外国人のニーズがある。	○週1回程度、日本語学習の時間を設定。 ○在籍生徒数 121人のうち、 日本語指導が必要な生徒 1割程度 中学3年時に30日以上欠席した生徒 3割程度	2025年4月 (2023年1月公表)
西三河	豊田西高校 夜間定時制 (豊田市)	○豊田市は、外国人が、名古屋市、豊橋市に次いで、県内で3番目に多く居住している。 ○日本語の習得が十分でないため、夜間中学で学びたいという外国人のニーズがある。 ○豊田市は、不登校児童生徒が多く在籍している。 ○長期欠席により学習が十分でないため、夜間中学など多様な学びの場を求める生徒のニーズがある。	○週2回程度、日本語学習の時間を設定。 ○在籍生徒数 87人のうち、 日本語指導が必要な生徒 2割程度 中学3年時に30日以上欠席した生徒 3割程度	
尾張	小牧高校 夜間定時制 (小牧市)	○小牧市は、外国人が、県内で6番目、尾張地区で最も多く居住している。 ○日本語の習得が十分でないため、夜間中学で学びたいという外国人のニーズがある。 ○経済的に厳しい外国人家庭の生徒は、公立高校への進学を希望するが、日本語習得が十分でなく、基礎学力がついていないケースが多い。	○週4回程度、日本語学習の時間を設定。 来年度から学校設定教科「日本語」を開設。 ○在籍生徒数 121人のうち、 日本語指導が必要な生徒 3割程度 中学3年時に30日以上欠席した生徒 4割程度	2026年4月 (2023年3月公表)
	一宮高校 夜間定時制 (一宮市)	○一宮市は、不登校児童生徒が多く在籍している。 ○不登校生徒の中には、夕方登校し、学習支援を受けている生徒がいる。 ○不登校生徒の新たな学びの場の確保が求められている。 ○夜間中学で学びたいという生徒のニーズがある。	○週1回程度、日本語学習の時間を設定。 ○基礎・基本を重視した少人数での指導を実施。 ○在籍生徒数 119人のうち、 日本語指導が必要な生徒 3割程度 中学3年時に30日以上欠席した生徒 4割程度	

○夜間定時制高校に夜間中学を設置するメリット

- ・給食の提供が可能
- ・外国にルーツをもつ生徒が夜間中学で日本語を学んだ後、スムーズに定時制高校に進学することが可能
- ・交通の便がよい(最寄り駅より徒歩10~20分)

(外国人居住者が多い市(2022年6月現在))

・名古屋市 86,043人	・小牧市 10,549人
・豊橋市 19,716人	・春日井市 8,291人
・豊田市 18,935人	・安城市 7,910人
・岡崎市 12,909人	・一宮市 7,418人
・西尾市 10,680人	・豊川市 7,403人

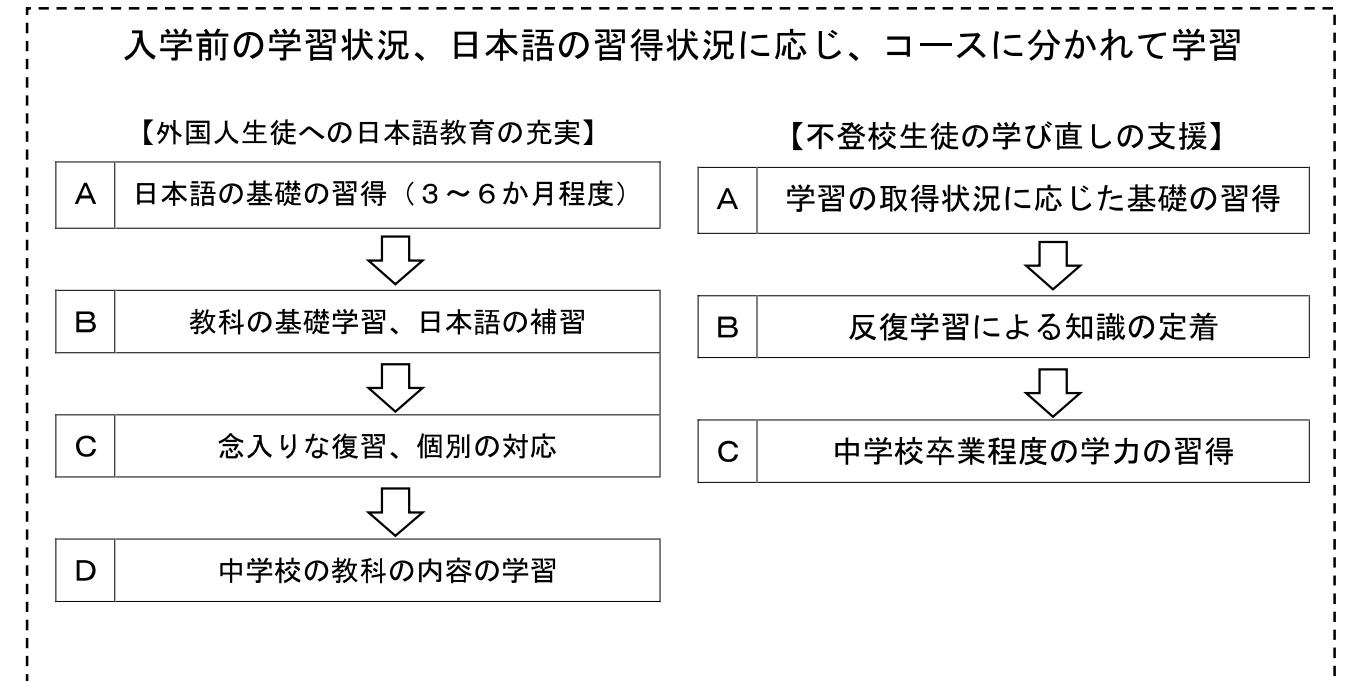
(不登校児童生徒数)

文部科学省「令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」により、市町村別の児童生徒数は非公表

(4) 夜間中学の対象となる生徒、教員数、支援内容等

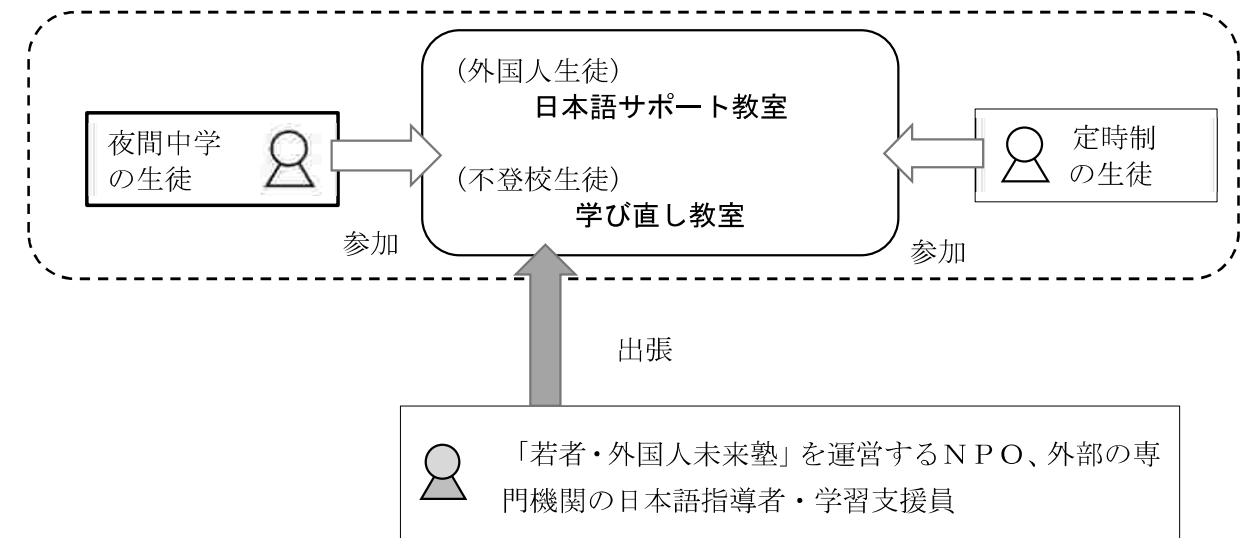
項目	内容
① 対象となる生徒	<ul style="list-style-type: none"> ○ 義務教育を修了しないまま学齢期を経過した方 ○ 不登校など様々な事情により十分な教育を受けられないまま中学を卒業した方 ○ 本国や我が国で義務教育を修了していない外国籍の方 <p>※不登校の生徒が中学校に籍をおきながら夜間中学へ通うことも可能</p>
② 生徒数	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年1学級10人程度、全体で10～30人程度（定員なし） ○ 日本国籍の生徒が2割、外国籍の生徒が8割 ○ 日本国籍の生徒の半数は60歳以上 ○ 外国籍の生徒はほとんど15才～39才 <p>※国籍、年齢層については、文部科学省「令和元年度夜間中学に関する実態調査」から推計</p>
③ 教員数	<ul style="list-style-type: none"> ○ 専任の管理職1人、教諭10～15人程度、養護教諭1人、通訳など、合計15人程度
④ 支援内容	<p>外国人生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日本語専門教師による日本語の習得に向けた系統的な学習を実施 ○ 母語指導教師による学習や生活支援を実施 ○ 外国にルーツをもつ生徒が日本語を含む学力を身に付ける <p>➡ 就職を希望する生徒が多いことから、高校で日本語を含めた学力を身に付けることができるよう、夜間定時制高校への進学を支援</p>
	<p>不登校生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学齢期を経過した生徒が中学校卒業程度の学力を身に付ける ○ 基礎からの学び直しにより、確かな学力を身に付け、社会的自立ができるよう、夜間定時制高校への進学や就職を支援 ○ 学齢期の不登校生徒が、在籍校に籍を置きながら夜間中学において授業を受けられる学びの場を提供
⑤ 学校施設	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教室（ホームルームや特別教室）、図書室、保健室、運動場、体育館は、高校施設を共用 ○ 職員室は、既存の部屋を改修 ○ 豊田西高校は、主に中高一貫の中学校施設を共用
⑥ 「若者・外国人未来塾」との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「若者・外国人未来塾」を運営するNPO、外部の専門機関の日本語指導者・学習支援員が、夜間中学を訪問し、生徒の日本語習得と学び直しを支援

《夜間中学の教育課程のイメージ》



「若者・外国人未来塾」との連携

夜間中学の生徒、定時制の生徒の日本語習得と学び直しを支援



4 夜間中学、夜間定時制、若者・外国人未来塾の配置

